



# 知事対談

杉良太郎×仁坂吉伸  
歌手・俳優 和歌山県知事

協力：ザ・プリンスギャラリー 東京紀尾井町

## 社会貢献活動に息づく 人を思いやる心

歌手や俳優として第一線で活躍しながら、デビュー前の15歳より刑務所や養老院の慰問を始め、様々な福祉活動をしてこられた杉良太郎さん。海外では支援を必要とする子供たちを我が子のように愛おしみ、様々な国でチャリティー公演を行ってきた。現在は特殊詐欺防止や健康対策についても力を注ぐ。人を思いやることで大事なことを教わる。真実に出会うとは？

**仁坂知事(以下仁坂)** ●歌手や俳優だけでなく、社会貢献活動でも大活躍の杉良太郎さんですが、和歌山とも様々なご縁があり、また和歌山のために色々と貢献をしてくださっています。

**杉良太郎(以下杉)** ●紀の川市にある「杉良太郎農園」で白桃を作っています。季節になるとお世話になった皆さんに贈っているのですが「こんな桃は他にはないだろう」と自慢しています。また子供の頃から、よく母親に連れられて高野山に行っていました。高野山は他とは違う静けさというか、子供心に特別な場所だという印象を受けていました。

**仁坂** ●最初に出会ったのは知事になった16年前のことでしたね。杉さんは何かにつけて和歌山を応援してくださっています。「濱口梧陵ご献上稲むら太鼓」もわざわざ結成して下さいました。また紀

の川市にある平池緑地公園には、二階俊博衆議院議員や杉さんのご縁でベトナムから贈られたハスの花が友好のシンボルとして美しい姿を見せてくれます。2019年にはベトナムのフック首相が平池を訪れ、両国友好関係の深化に期待を寄せられました。

### 騙されてはいけません 特殊詐欺

**仁坂** ●杉さんは、警察庁の特別防犯対策監として様々な防犯対策に取り組み中で、著名人の皆さんに呼びかけ、プロジェクトチームを作り全国で特殊詐欺の対策を行われています。

**杉** ●以前は「オレオレ詐欺」と呼ばれていましたが、詐欺も多様化し、今では特殊詐欺と呼ぶようになりました。詐欺被害に遭わないようにするのは容易なこと

ではありません。どう考えたってATMで還付金が戻るということはありえないのですが、犯人は5千人、1万人にも電話をかけ、その中のほんの数人を騙さればいい。そして実際、言葉巧みに騙されてしまう方がいる訳です。そこで芸能界の皆さんに力を借りて「ストップ・オレオレ詐欺47」家族の絆作戦」プロジェクトチームを立ち上げました。こうした活動を4年ほど前から行っており、全国47都道府県警とも連携して対策をしています。現在までで35ヶ所。もちろん和歌山県警本部にも行きました。

**仁坂** ●県や和歌山県警も一生懸命啓発をしていますが、私たちがテレビなどで騙されないように！”と言ってもなかなか聞いてくれない。ところが「杉良太郎さんが出てくると、すごく熱心に聞いてくれるんですね。県警では2021年に



警察庁特別防犯対策監として自らも全国へ行き、活動している。

専用のフリーダイヤルがちょっと確認電話を開設しました。24時間対応で番号が「0120508878」コレハワナヤ」となっていて、1年ちよつとで約300件の詐欺を実際に阻止しました。さらに杉さんは、厚生労働省の健康行政特別参与として、肝炎対策の啓発をはじめ、国民の皆さんに健康の大切さを伝える活動をされています。

**杉** ●最初は肝炎対策で途中から健康行政を委嘱されました。健康維持のためには身体を動かすことが大切です。そこで全国47都道府県に高齢者によるヒップホップのダンスチームを作ろうとしています。一番はやっぱり健康です。健康であれば医療費の削減にもつながりますし、踊ることで健康でいて欲しいなと思っています。C型肝炎は今では飲み薬で治るようになっていきます。全国で無料検査を



受けられるようになっていますが、ただだつて言われても行かない。甘くみている。自分の命だから検査しないと。詐欺にしても健康にしても、一人でも調子が悪くなると家庭が暗くなりますからね。**仁坂**●県民の皆さんには是非とも検査を受けていただきたい。検査で何もなかったら安心ですからね。もし悪い結果が出たとしても、今の医学ですぐに治療することがありますから、安心して検査を受けていただきたいですね。

**彼らの父親になる！**  
**ベトナムに里子が152人**

**仁坂**●杉さんは、国内だけでなく海外でもたくさん社会貢献活動をなさっていて、特に子供たちの支援に熱心に取り組まれていらっしゃると聞いています。

**杉**●ベトナムには152人の里子がいますが、大学卒業まで面倒を見ています。中には家庭を持った子もいるんですよ。きっかけですが、ベトナムの孤児院にね、喜んでくれるだろうと山ほどのお菓子を持っていたんです。しかし「美味しいから食べなさい」と言っても手に持ったままじっとしてる。聞くとお菓子ではなくて「お父さんお母さんが欲しい」というんですね。それを聞いて私は部屋から飛び出して泣きましたね。その時に「私が彼らのお父さんになる」と決心しました。そういうエピソードはミャンマーで

イブ椅子の上に正座して手を合わせて歌を聞くんですよ。日本のコンサートでは見たことない光景でした。そうしてサンパウロでも移民80年祭で公演を開催し、日伯病院の建設費として寄付しました。竹中さんは信念があつて、人間的にも本当にいい人でしたよ。

**仁坂**●杉さんは、かなり昔から移民の方を大事にしておられたんですね。ブラジルでも第二次世界大戦により移民の受け入れが止まりました。そして戦後に再開した移民の最初のグループに多くの和歌山県人がいました。かなり苦労されたのですが、そんな中でも彼らが一番大切にしていたのは教育なんです。自分たちがどれだけ貧しく辛くとも、子供に教育だけは絶対に受けさせるぞと。教育を受けることによって二世あるいは三世は各分野で活躍するようになり、日本人が尊敬されることになりました。

**杉**●現代とは違い、当時は何もかもが足りない不自由な時代でしたし、飛行機で一足飛びに行ける場所でもありませんでした。しかしあの時代を生き抜いた日本人は驚くほど辛抱強かつたんでしょうね。6畳間ほどの小屋に6人家族が住んでいるんですよ。どうやって寝ているんだろうと思うようなところで寝て、朝から晩まで働いて。移民船「笠戸丸」で移民した中川トミさんというおばあちゃんに塩昆布を一箱あげたのですが、こんなにた



# 知事対談

## 杉良太郎 × 仁坂吉伸

歌手・俳優 和歌山県知事

もバン格拉デシユでも山ほどあります。福祉とかボランティアという言葉を使うのは嫌なんです。何が大事で何が本当なのか、ということをお話してあげます。ですからその子たちは私にとつての先生なんです。

**仁坂**●逆にいろんな教えを受けるんだって気持ちになれる人はあんまりいない。和歌山県の海外交流は大勢の人に助けてもらっています。杉さんのような真心ある行動が、人を動かしているんじゃないかと思えます。素晴らしい活動に感謝を受けたい。

**杉**●支援を必要とする子供に対して、人はそれぞれ自分にできることをしてあげなければならぬと思うわけです。お金のある人はお金を寄付してください。お金のない人は大事な時間を寄付してください。お時間も提供できない人は

そういった活動をしている人を理解してあげてください。これが、福祉の原則だと思います。

**迷惑をかけた国とお世話になった国に**

**仁坂**●杉さんは、アメリカやブラジルなど、海外の日系社会との関わりも深いと聞いています。

**杉**●戦争を知らない世代である私が、なぜ海外へ行くようになったかというところ、一つは戦争で迷惑をかけた国に対して謝りに行くこと、一つは「お世話になった国へお礼に行こう」となり、ブラジルなど移民でお世話になった国を訪問しました。移民の環境は過酷で、感染症や病気になつたり、猛獣に襲われたりして多くの方が亡くなりました。そして寝る暇もないほど働いたそうです。これが移民一世の人たちの実態なんです。その人たちのために何かしたいと思つていたところ、和歌山県出身で、当時のサンパウロ日伯援護協会の竹中正会長が私のところに来て、「サンパウロに日本語が通じる病院が欲しい。我々の悲願なんです」というんです。それを聞き「何とかしよう」ということで、サンパウロとロンドリーナでチャリティ公演を開催しました。3万人規模の野外コンサートだったのですが、一世や二世のお客さんが、パ

くさん自分はいらないから、あなた少し持つて帰るなさいと言われて。日本人って昔はこんなだったんだらうなと思います。そういう人たちに私は歌を聴いてもらうことができた。真実の笑顔とか拍手とか涙に出会って、私の方が色んなことに気付かされたというか、勉強をさせてもらいました。実は日本人歌手の中で、外国で公演した回数が一番多いのは私なんです。ロサンゼルスで「日系引退者ホーム」のためにチャリティ公演を行ったときに出会った理事長も、和歌山の人じゃなかったかな。

**仁坂**●はい。その方はブレッド和田勇さんですね。御坊市で幼少期を過ごされ、1964年の東京オリンピック誘致に大変貢献されました。ロサンゼルス日系社会のリーダーとして活躍されています。



ベトナムのバックラー孤児院では現在でも入所する全員を里子にしている。(写真は1990年の訪問時)

**募る故郷への思い**  
**県人会世界大会を開催**

**仁坂**●5年に1回くらい和歌山県から海外県人会を訪問するんですが、もう本当に喜んでくださるんです。いつも心の中でふるさとを思つてくれてるんですよ。そこで皆さんに和歌山へ来てもらおうと考えて、2019年に和歌山県人会世界大会を開催しました。県民文化会館の大ホールで歓迎式典を開催し、その後は出身地域に分かれて「ふるさと巡りツアー」を行い、そこで地元の人たちと一緒に歌ったり踊ったり交流して、皆さんものすごく仲良くなつて。遠くにあつても故郷は大切で忘れられないものですよ。次は2023年秋に第2回世界大会を開催する予定です。最後に和歌山県の皆さんにメッセージを頂戴できないでしょうか？

**杉**●和歌山県の皆さんは、いつも見ているから当たり前になつていられるかもしれないかもしれませんが、和歌山は私から見ると魅力の塊だと思えます。多彩な果物があつて、自然に囲まれていて、歴史も文化もある。そんな和歌山の魅力をもう一度皆さんが見直していただけたらいいなと思います。最後にもう一度、電話がかかってくるまでお金の話が出たら詐欺です！そして健康。自分の身体にしっかり向き合い、早く検査をして家族みんな幸せになれるように。私も和歌山大好き人間なんで、皆さん、幸せになつてください！

### 杉良太郎

1944年神戸市生まれ。昭和1965年、コロムビアレコードより歌手デビュー。今年芸能活動58年、福祉活動63年を迎え、TV、舞台、福祉活動に邁進。2008年緑綬褒章、2009年紫綬褒章を受章。2016年文化功労者。現在、法務省特別矯正監、警察庁特別防犯対策監、厚生労働省健康行政特別参与を務める。

